

# OpenOffice.org/LibreOfficeの 展望とコミュニティの役割

オープンソースカンファレンス2011 Tokyo/Spring

主催:オープンソースカンファレンス実行委員会  
共催:早稲田大学 基幹理工学部 情報理工学科

2011年3月5日土曜日  
12:00-12:45 63号館204

OpenOffice.org日本ユーザー会



# 本日のプログラム

- OpenOffice.org と LibreOffice (10分)
  - OpenOffice.org と LibreOffice の機能の違い
  - OpenOffice.org のロードマップ
  - LibreOffice のロードマップ
  - ユーザー会と OpenOffice.Org 日本語プロジェクト
  - LibreOffice のコミュニティについて
- ディスカッション (10分)
- ユーザー会の事業について (10分)
  - ディスカッション (10分)
- その他の話題 (5分)
  - OpenOffice.org Certification

# OpenOffice.orgとLibreOffice の機能の違い

- LibreOffice は openOffice.org のソースコードがベース
- 同じ 3.3 では、 OpenOffice.org 3.3 + 独自機能が LibreOffice 3.3
- 機能の違いは見た目では少ないものの意外に機能差があることに驚く

# OpenOffice.org 3.3の主な新機能

カテゴリ	機能	概要
全般	印刷機能の改善	「ファイル」-「印刷」で起動されるダイアログボックスが大幅に改善された。印刷結果がプレビューで確認できるようになり、大変わかり易くなっている。Microsoft Office 2010相当の機能である。
	検索バー	各アプリケーションの標準ツールバーの右側に新しく検索バーが設けられた。この検索バーに直接キーワードを入力することで素早く検索が行える。一般的なオフィスソフトではダイアログボックスを表示して検索を行う必要があり、OpenOffice.org独自の画期的なUIである。
Calc	100万行のシートに対応	Calcで扱えるシートの行が、65,536行から1,048,576(約100万)行に拡大された。Microsoft Office 2010相当の機能である。
	グラフに図形描画機能を追加	グラフの設定機能に図形描画が追加された。これまでは、グラフに追加された図形は、別のオブジェクトとして扱われてしまうため、グラフの変更時、コピー&貼り付けなどの操作時に不便だった。3.3.0からは同じオブジェクトとして扱えるようになり、これらの操作が問題なく行える。Microsoft Office 2010相当の機能である。
Impress	スライドレイアウトの改善	スライドレイアウトの選択画面が3.3.0から一新された。これまでは「タイトルスライド」「タイトル、テキスト」など27のレイアウトが登録されていたものが、3.3.0では16にまとめられている。テキストと表、グラフ、画像、動画の4つのオブジェクトが1つのスライドレイアウトを選ぶだけで入力可能となっており、生産性の向上につながる改善だ。これはOpenOffice.org独自のUIとなっている。

•参考:<http://wiki.services.openoffice.org/wiki/JA/Marketing/NewFeatures/3.3>

# LibreOffice 3.3の独自機能 1

カテゴリ	機能
全般	フラットXML形式ファイルの読み込みと保存に対応
	LGPL(ライセンス)をヘルプメニューから参照可能に
	Wiki版オンラインヘルプを用意(従来のヘルプもパッケージを別途インストールすると利用できる)
	LibreOfficeの実験的で不安定な機能を「ツール」-「LibreOffice」-「全般」のオプションで有効/無効を切り替えられる(デフォルトは無効)
	Linux Libertine GフォントとLinux Biolinum Gフォントをバンドル
	カラーパレットにLibreColorを追加
	TIFFファイルのアルファチャンネル情報をインポート可能に
	保存/開くダイアログボックスで使用可能なファイル形式をすべて表示
	複雑なメニューオプションにはラジオボタンを使用
	非表示になったドキュメントの保存を許可するオプションの追加
	(ディストリビューションのビルドによって)UNIX系ビルドにクイック起動を追加
	スモールキャピタライズ機能の修正

# LibreOffice 3.3の独自機能 2

カテゴリ	機能
Writer	表紙ページの作成と管理を簡単に行えるダイアログボックスを新たに追加
	Lotus Word Proのインポートフィルター
	SVG画像をWriterにインポート
	データロスを伴う非常に重要なRTFへのエクスポート機能の不具合を修正
	オートコレクト機能が置換するワードを収録
	Writerの表内の数値認識をオフに
	MS Worksドキュメントのインポート
	ナビゲータでは、一般的なツリー表示で見出しを展開できる
	多くのWordperfectのインポート機能を改善

# LibreOffice 3.3の独自機能 3

カテゴリ	機能
Calc	より普通な標準のキーバインディング (Excelと操作互換性のあるものに変更された。旧来のキーバインディングにもオプションで変更できる)
	シートを挿入するための「+」タブを追加 (このタブをクリックするとシートが追加される)
	スモールキャピタライズ機能の修正
	罫線に点線・破線が加わる
	罫線の表示/非表示を切り替えるアイコンがツールバーに加わる
	Excelドキュメントのインポート時のパフォーマンスと相互運用性を改善
	DBFファイルのインポート時のパフォーマンスを改善
	ODSファイルのインポート時のパフォーマンスをやや改善
	セル内の文字列の水平方向の均等割付、垂直方向の均等割付を可能に (CJKロケールでよく利用されるもの)
	Calc A1、Excel A1、Excel R1C1という3つの異なる数式構文をサポート
	Tabキーを使うと選択された位置でオートコンプリートを実行し次のセルへ移動する
Ctrl+Tabキーでは、オートコンプリートの選択を循環できる	

# LibreOffice 3.3の独自機能 4

カテゴリ	機能
Impress/ Draw	PowerPointのPPTXファイルのグラフのインポート機能
	Impressの表の罫線に点線・破線が加わる
	プレゼン用の拡張機能の「Presenter Screen」を標準に（ラップトップPCの場合）
	Drawで編集可能な状態でSVG画像をインポート
Base	図形のコントロールにプロパティ表示を追加

•オリジナル:<http://wiki.documentfoundation.org/Marketing/LibOReleaseEvents/LOPressKit/FeatureList3.3>  
The Document Foundation CC BY-SA 3.0



# OpenOffice.orgのロードマップ

- OpenOffice.org 3.4
  - 2011年2月28日 Alpha Release
  - 2011年3月7日 Branch off
  - 未定 翻訳とTCMテスト
  - 未定 Beta Release
    - 参考  
<http://wiki.services.openoffice.org/wiki/OOoRelease34>

# LibreOfficeのロードマップ

- LibreOffice 3.3.1
  - 2011年2月23日 Release
- LibreOffice 3.3.2
  - 2011年3月7日 RC1
  - 2011年3月14日 Release
- LibreOffice 3.4
  - 2011年5月2日 Release
- 参考
  - <http://wiki.documentfoundation.org/ReleasePlan>

# OpenOffice.orgユーザー会と OpenOffice.org日本語プロジェクト

- OpenOffice.org 日本語プロジェクト
  - <http://ja.openoffice.org/>
  - OpenOffice.org 日本語版の QA、翻訳を担当
  - OpenOffice.org のリリースの権限を持つ
- OpenOffice.org 日本ユーザー会
  - <http://oooug.jp/>
  - 日本語プロジェクトの QA、翻訳に協力（これまでは個々のメンバーが個人レベルで参加）
  - 日本のユーザーのための拡張機能の開発
  - 2010年11月から NPO 法人に

# LibreOfficeのコミュニティについて

# LibreOfficeの誕生

- 2010年9月末  
The Document Foundation という組織が立ち上げられ、LibreOffice（仮）が発表される。
- Oracle に対して OpenOffice.org の商標の譲渡等を提案するが、最終的に却下される。
- このあたりの動きが唐突であったこともあり、OpenOffice.org の後継が LibreOffice であるという誤解が生まれてしまった。

# LibreOfficeって何？

- OpenOffice.org3.3 のソースコードをベースにして分岐したソフトです。
  - だから最初のリリースが 3.3 でした。
  - 直接的には The Document Foundation という組織が開発しています。
  - 特定の企業スポンサーというのは存在しません。
- カタカナで書くと「リブレオフィス」です。
  - Libre とはフランス語やスペイン語で「自由な」という意味です。

# LibreOfficeの目指すもの

- 名前のおり「自由」であることです。
  - ユーザーに対して、「選択肢」という自由を。
    - OpenOffice.org があります。 LibreOffice があります。その他にも NeoOffice や OxygenOffice などもありますし、今後 ODF を採用するソフトは増えるでしょう。
  - 開発者に対して「参加できる」という自由を。
    - 提案したパッチの取り込みが迅速です。
    - 官僚的であるよりも、実力主義を目指します。

# The Document Foundation?

- TDF とは何をしている組織なのか。
  - 開発しています。が、開発者は企業としての協力、個人としての協力を含めて世界中にいます。
  - 最近 5 万ユーロを寄付で集め、ドイツの非営利組織としてより強固な体制を構築中です。
- 実は中心メンバーは事務作業がほとんどだそうです。



# 日本におけるLibreOffice

- メールングリストがメインの活動の場
  - 「libreoffice メールングリスト」で検索！
  - アナウンスと discuss という 2つが主に稼働中。
  - users というユーザー向けのリストもありますが、まだ投稿はほとんどありません。
- もちろん、OpenOffice.org 日本ユーザー会でもウォッチしています。

# ディスカッション

# OpenOffice.org日本ユーザー会 の事業について

- ユーザーサポート事業
- 教育事業
- 出版事業
- これらを特定非営利活動事業として行う
  - 特定非営利活動事業とは「収益事業」ではないということ

# ユーザーサポート事業

- 経済的側面から
  - 事業を支える経済基盤は賛助会員の方の年会費
  - 法人会員をいかにして増やすか
  - 加えて助成金などの寄付など
  - ユーザーサポート事業による特定非営利活動に伴う収入

# ユーザーサポート事業

- 継続されるボランティア活動
  - ユーザー同士による情報交換的なサポート
  - メーリングリスト
    - [openoffice@freeml.com](mailto:openoffice@freeml.com)
  - Q&A サイト（掲示板）
    - <http://oooug.jp/faq/>
  - SNS のコミュニティ
    - <http://oooug.jp/sns/>
  - 互換性研究室
    - <http://oooug.jp/compati/3.0/>

# ユーザーサポート事業

- 想定される特定非営利活動事業
  - OpenOffice.org/LibreOffice の導入支援
    - SNS のクローズドコミュニティによる有料のユーザーサポート
    - 付加価値をつけたパッケージの低価格販売（メール＋スケジューラ＋オフィスソフト＋拡張機能）
    - OpenOffice.org/LibreOffice をサポートする地域ベンダーに対する技術協力

# 教育事業

# 教育部門が何を行うか

- 基本的に皆さんが想像するであろう教育を行う。
  - 講師派遣による直接指導
  - E-learning 形態による多数への提供
- 出版部門やユーザーサポート部門とも協力し、柔軟な対応を行う部門。



# 少し先に実施したいこと

- 自分たちの経験に基づいてノウハウを蓄積し、OpenOffice.org の教育を各地のパソコン教室などに提供。
- 知っている人が広めていけば加速度的に広がる、といいなあという意外と昔ながらの発想。

# 最終的に目指すゴール

- ユーザー会の目的でもある、デジタルデバイドの解消。
  - 高額な費用＝スキルの取得ではない
  - 無料のソフト＝粗悪品とは限らない
  - 必要なのは道具を使う能力であって、特定のソフトを使うことではない。
- 最終的には、 [OpenOffice.org/LibreOffice](https://www.openoffice.org/LibreOffice) を使ってもらうことではなく、適切な道具を適切な場で使うことができるようになってほしい。

# 出版事業

# 出版ワーキンググループの目指すもの

OpenOffice.orgやGoogleDocsの登場



書店の棚は、依然としてMicrosoft Office中心



OOo日本ユーザー会が、改善したい

電子出版で、版元を通さなくても、  
誰でも出版できるようになった。  
その先駆けとしての役割を果たしたい。

# 事業計画

- どんな本を作ったらよいか
- どんな売り方をしたらよいか
- ライターや編集者の確保にはどんな工夫が必要か

# どんな本を作ったらよいか

1. オフィスソフトの入門者向けの解説書
2. すでに Microsoft Office を使っている人向けの解説書
3. 小学生、中学生向けの解説書
4. シニア向けの解説書

.....

.....

.....

# どんな本を出すかの結論

- 目的から機能の使い方を知る『逆引きマニュアル』
  - 「逆引きマニュアルー Calc 編」
  - 「逆引きマニュアルー Writer 編」

(100 ~ 200 項目程度、  
一般書籍に換算して 300 ~ 400 ページ)

# どんな売り方をしたらよいか

## 【キーワード】

- Web 出版（電子出版）
- 低価格（ゼロ円を含む）

## 【ポイント】

- NPO の事業計画は、赤字にならないければよい
- 必要なら、既存の出版社と提携、印刷と製本を外注



# ライターや編集者の確保に向けて

1冊1000円でダウンロードした場合の内訳

書籍単価		1,000 円
執筆者	40%	400
編集者	30%	300
決済コストなど	10%	100
ユーザー会	10%	100
オープンソース支援	10%	100

- 既存書籍の報酬(印税)の4倍から7倍
- 1版で1000ダウンロードを目指す

# 作成する書籍のポリシー

1. 素人が作った同人誌のようなものではなくて、「きちんと編集者されたしっかりした書籍」
2. ページレイアウトの美しさよりも、読みやすさ、分かりやすさを重視する。コンテンツ優先。
3. 読者の利便を最優先とし、そのための冗長を許す。… 一般の書籍と違い、Web出版なら可能。
4. 具体的な事例を取り上げる。題材は、きちんと作り込む。

# ディスカッション

# その他の話題

- OpenOffice.org Certification
  - <http://ooocertification.com/>